

教育・研究等業績一覧

履 歴					
フリガナ	フジタ マモル	所 属	農学ビジネス学科		
氏 名	藤 田 守	身 分	准教授		
学 歴					
年 月	事 項				
1994年8月	Institute of Languages, The University of New South Wales, Sydney, Australia (～1995年4月)				
1996年3月	拓殖大学 政経学部 経済学科卒業 経済学士				
1998年3月	国立台湾師範大学国語教学中心 (～1999年6月)				
1999年9月	東呉大学 (台湾) 外国語文学院 修士課程入学				
2002年1月	東呉大学 (台湾) 外国語文学院 修士課程修了 文学修士 (東呉大学)				
職 歴					
年 月	事 項				
2000年3月	東呉大学 (台湾) 公開講座 非常勤講師 (～2004年2月)				
2003年9月	世新大学 (台湾) 人文社会学院 日本語文学科 非常勤講師 (～2004年1月)				
2004年4月	拓殖大学北海道短期大学 経営経済科 専任講師 (～2007年3月)				
2007年4月	拓殖大学北海道短期大学 経営経済科 助教 (職位名改称) (～2009年3月)				
2009年4月	拓殖大学北海道短期大学 経営経済科 准教授 (～2014年3月)				
2014年4月	拓殖大学北海道短期大学 農学ビジネス学科 (学科改組) 准教授 現在に至る				
教 育 業 績					
1 担当授業科目 (2022年度)					
科 目 名	出講場所	期別	曜日	時限	備 考
キャリアスキル	303 教室	前期	月	2	Cゼミ
2年ゼミナール	301 教室	前期	木	3	
1年ゼミナール	303 教室	前期	木	4	Cゼミ
中国語コミュニケーションⅠ	203 教室	前期	月	4	
総合中国語Ⅲ	203 教室	前期	月	3	Aクラス
日本語コミュニケーションⅠ	303 教室	前期	水	1	
総合日本語Ⅰ	203 教室	前期	金	5	
日本語コミュニケーションⅢ	303 教室	前期	水	4	
総合日本語Ⅲ	203 教室	前期	金	4	
地域プロジェクト	101 教室	前期	木	5	
地域特別演習	101 教室	前期	木	5	
卒論演習					(随時)
2年ゼミナール	301 教室	後期	木	3	
1年ゼミナール	303 教室	後期	木	4	Cゼミ
中国語コミュニケーションⅡ	203 教室	後期	金	2	
総合中国語Ⅳ	203 教室	後期	月	3	Aクラス
日本語コミュニケーションⅡ	203 教室	後期	木	1	
総合日本語Ⅱ	203 教室	後期	月	4	
日本語コミュニケーションⅣ	203 教室	後期	火	3	
総合日本語Ⅳ	303 教室	後期	金	4	
地域プロジェクト	101 教室	後期	木	5	
地域特別演習	101 教室	後期	木	5	
卒論演習					(随時)

<p>2 現行授業の目標と教育効果及びそれに対する自己評価</p> <p>(記述式：900字以内)</p>	<p>1) 現行授業の目標と教育効果(目標)</p> <p>①第2外国語学習は難しそうというイメージの払拭と語学学習継続後のイメージの醸成</p> <p>②メディア報道による情報と一般市民意識の例を提示し、双方の相違点の明確化</p> <p>③語学学習や文化に関する情報提供を通じての教養レベルのさらなる高揚</p> <p>④学習目的に応じた情報の提供による学習成果の自覚</p> <p>⑤語学学習やその必要性に懐疑的な学習者のアプローチ方法を取り入れた授業運営</p> <p>教育効果)</p> <p>ストレスなく習得するための対処法や関係する情報収集を通じて、新たな発見ができたとする改善の傾向が授業内で課した小レポート等で確認された。以下は目標に対する所見である。</p> <p>①中国語の授業や学習に対して肯定的なコメントが見られた。(例：中国語は難しくてわからないけれど説明が良くてわかりやすかった・スライドの説明が良かった・ゆっくり進めるので理解しやすい。)</p> <p>②中国や中国語に対するイメージと従来の観点とは異なる視点を得たとのコメントが見られた。(例：他の先生にはない観点の話を聞いてよかった)</p> <p>③発音・漢字・食・文化など関心にに応じて新しい発見があったとの肯定的評価が見られた。(例：中国語の音の特徴について深く学べたこと。単語の発音を繰り返していたところ。音の聞き方、それをどう会得しなければならないのかが明確だったこと。感染対策をしっかりした上で教科書以外にも中国語の基本発音や勉強の仕方など丁寧に教えてくださったこと)</p> <p>④言語習得の具体策に関するコメントがあった。(例：音声を繰り返し流してくれるので頭に残りやすいです。単語の練習に絵を使い覚えやすい)</p> <p>2) 自己評価</p> <p>感染症対策を十分配慮しながら考案した聴解練習と会話練習の基礎に重点を置いたことで、人前で発音したり発表したりする際の緊張感から解放されリラックスしながらも適度な集中力を維持し学習に取り組む様子が確認された。コロナ禍での授業展開であったが、従来とは異なる観点から第二外国語学習の意義を考える機会を与えたことで、一連の学習に対する積極性の醸成に結びついたものとする。</p>	
<p>3 学生による授業評価も踏まえ、教育改善への取り組み</p> <p>(記述式：900字以内)</p>	<p>1) 現状の説明(長所と問題点を含む)</p> <p>・授業進行についてはよいとの記述もあるが、一方で遅いとの指摘もある。双方にとって有効な授業総括を考え、全体の進行に余裕を持たせる。</p> <p>・テスト前に復習してくれるところがよいとの記述もあり、自分でできるようになった箇所と不十分な箇所を明確にするよう促すことで引き続きテスト対策を強化する。</p> <p>・感染症対策のために教授法に制限がある現状を考慮し、効果的で自分に負担がかからない学習方法を模索することも学習時間に含めるよう案内する。</p> <p>2) 改善への取り組み(実践例を含む)</p> <p>「教員と学生の間、学生同士の間にも有効なコミュニケーションがあった」は、感染症対策の影響や学習者の問題意識の程度にも関係があると考えられるが、授業後に質問や確認の時間を設けていることを後期は特に強調して呼びかけたこともあり前期より改善傾向示された。これには「質問への回答が丁寧だった。」などの趣旨を示すコメントも複数挙げられている他、「授業後の質問にしっかり答えてくれた」との評価も上げられていたことも関係があると考えられる。</p>	
<p>4 教科書、教材の作成状況(記述式：300字以内)</p>		
<p>5 学生の指導(課外活動・厚生補導等)</p> <p>(主要10件以内)</p>	<p>2006年度～2007年度</p> <p>2009年8月</p> <p>2010年11月, 2011年10月</p> <p>2010年12月, 2011年11月, 2013年11月, 2015年10月, 2016年10月</p> <p>2012年6月～(毎年6月)</p> <p>2013年7月～(毎年7月)</p> <p>2013年11-12月</p> <p>2016年1-2月</p> <p>2016年10月</p>	<p>シーズンスポーツ同好会顧問</p> <p>処分学生に対する指導(全16回)</p> <p>国際交流パーティー(深川国際交流協会)対象留学生スピーチ指導</p> <p>国際交流パーティー(深川国際交流協会)引率</p> <p>インターナショナルデー(深川国際交流協会)発表指導及び引率</p> <p>しゃんしゃん傘踊り実行委員会指導(学生委員会, 学生・地域国際交流委員会)</p> <p>経営経済科卒業制作実行委員会・委員</p> <p>海外研修上海研修者事前研修指導(対象者3名, 全3回)</p> <p>海外研修参加者対象事後研修指導</p>
<p>6 その他</p> <p>(主要5件以内)</p>	<p>2015年9月, 2016年5月</p> <p>2017年9月-10月</p>	<p>市民公開中国語講座(全7回)(主催：本学地域国際交流委員会)</p> <p>地域プロジェクト「多文化共生力を身に付けるための異文化交流」における市民参加者への対応</p>

研 究 業 績				
1 研究分野・活動 (記述式：350字以内)	超分節的特徴は会話によるコミュニケーションを行う上で重要な役割を果たす要因である。音声による明確な意味分別には超分節的特徴を適切に制御することで、自然なコミュニケーションや意思伝達が可能となる。その一方、中国語と日本語の共通点として音節長により意味の分別があることなどから、音節長の制御は音声産出において重要であると考えられる。こうした日中双方の特徴を踏まえたうえで音節長に関する研究を通じ、従来から指摘され続けてきた中国人日本語学習者の日本語の発話における自然性の向上に資するべく、中国語の音節長の特徴と日本語の音節長の特徴を把握の上、中国人日本語学習者と日本人の発話データを対照させ総合的に検討する。			
2 研究課題 (今後の展開・可能性を含む) (記述式：350字以内)	<p>研究課題「長短範疇化の前提となる自然な日本語発話を促す CV 音節長」</p> <p>本研究では、自然な日本語発話の習得促進のため、中国語を母語とする日本語学習者（以下、CNJ）6名による日本語の検査語「マママ」を対象に、中国語の“这个”の軽声音節“个”/ge/で構成される無意味語“个个个”に置き換えた短音節の教示を受ける前後と東京語の母語話者（以下、JN）3名による発話実験を行った。</p> <p>そして、JN（54音節）とCNJ（前後各108音節）の検査語の個々の音節長による度数分布を比較し、長短の範疇化の前提としてのCNJのCV音節長（msec.）とその学習効果を確認した。</p> <p>その結果、CNJの個々の音節長には、当初、日本語の短音と長音の境である200msec.前後かそれ以上で、JNの音節長との重ね合わせの傾向はなかったが、教示後はJNに近い程度となり重ね合わせの傾向が示された。検査語の位置別では、音節長の習得が難しい語末の場合、文の発話の方が単語や文節より学習効果が顕著であった。</p> <p>以上から、中国語に置き換えた日本語の短音節の基準は、日本語の適切なCV音節長の産出に不可欠といえる。更に、長音節との音声的な違いの把握に貢献し、適切な長短の範疇化の促進や安定した特殊拍の産出も期待できる。</p>			
3 研究助成等 (主要5件程度)	(1) 文部科学省科学研究費 特になし (2) 学内 2010年度 拓殖大学人文科学研究所個人研究助成 2016年度 拓殖大学言語文化研究所個人研究助成 (3) 学外 特になし			
4 資格・特許等 (主要3件以内)				
著書、学術論文、作品等の名称 (主要15件以内)	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行又は発表雑誌等又は発表学会等の名称	要約
(学術論文)				
北海道短期大学における日本語教育	単	2013年2月	日本語教育の歩みー拓殖大学日本語教育五十周年記念誌ー pp.118-125	拓殖大学北海道短期大学の留学生の受け入れの経緯と教育活動・客員講師の招聘・課外活動の取り組みなどをまとめた上で、今後の課題について論じた。
入学準備教育における学術的学習サイクルの適用-e-learningシステムによる日本語学習の意識調査とその結果-	共	2011年10月	拓殖大学人文科学研究所紀要第26号 pp.38-70	遠隔地の留学生を対象に学習内容を日本語聴解に限定してe-learningシステムによる入学準備教育を実施し、その教育方法や学術的学習サイクルの適用の有効性を確認した。教材利用回数など実施状況のデータ、アンケートによる意識調査や年度別の日本語能力試験合格率をもとに検討した。
拓殖大学北海道短期大学におけるe-learningシステムを活用した入学準備教育-入学準備教育の実施と今後の課題-	共	2011年3月	拓殖大学人文科学研究所紀要第25号 pp.75-96	拓殖大学北海道短期大学では、2003年度のAO入試と入学準備教育を導入し、経営経済科では3ヶ月間、学習習慣の維持には、学習管理と双方向性が必要であると考え、e-learningシステムを活用して実施した。実施結果より、現在大学が置かれている環境から、入学準備教育の必要性を確認した。

中国語母語話者の日本語発話における助詞の軽声化とその原因-2 モーラ語の単語発話と文節発話の比較-	単	2008年10月	拓殖大学語学研究 118号 pp.13-30	尾高型の単語にアクセント核はないが、文節では尾高型はアクセント核が生じる。助詞のモーラには母語で使い慣れている中国語の軽声が使われ、中国語の「第四声+軽声」で日本語の「単語の語末+助詞」を読み上げている傾向が示唆された。
(学会等発表等)				
長短範疇化の前提となる自然な日本語発話を促すCV音節長	単	2022年3月12日	多層言語環境研究国際シンポジウム	自然な日本語発話の習得促進のため、中国語を母語とする日本語学習者を対象に3音節語の発話実験を実施した結果、CNJの個々の音節長には、当初、日本語の短音と長音の境である200msec.前後かそれ以上で、JNの音節長との重ね合わせの傾向はなく、教示後はJNに近い程度で重ね合わせの傾向が示された。つまり、中国語に置き換えた日本語の短音節の基準は、日本語の適切なCV音節長の産出に不可欠で、長音節との音声的な違いを把握する前提となると考えられる。
日本語らしいCV音節長習得を促進する中国語音節とその要因 - 日・中両語の4音節語の音節長パターンの比較から -	単	2020年12月12日	2020年度台湾日本語文学会国際学術シンポジウム	学習者の日本語について、指導前後の4音節語の発話データを踏まえ音節長の産出要因や学習効果等により検討した。指導前は知覚傾向との類似性が確認された。日本語の音節の産出に母語の声調の産出に必要な音節長や中国語の2音節語の音節長パターンの援用により日本語のCV音節の連続発話を困難にする可能性を指摘した。
中国人日本語学習者の日本語発話における音節長の注意制御と学習効果 - 日本語らしいCV音節長の産出のための自己教育力を促す教授方略の適用 -	単	2020年5月9日	The 26 th Princeton Japanese Pedagogy Forum PROCEEDINGS May 9-10, 2020, pp.24-35 Department of East Asian Studies Princeton University	日本語に近い母語の音節への注意制御が日本語の音節長の産出のイメージを促進し、母語から日本語の発話習慣に切り替えられたことが確認された。一連の指導プロセスは認知的側面によれば音韻情報が学習者の頭に蓄積され、学習者の記憶から自動的かつ効率的に取り出せるようにする自己教育力を促す教授方略として有効である可能性が確認された。
中国語軽声音節の特徴の教示による日本語CV音節長の改善と効果 - 中国語と日本語の調音的特徴と音節長の産出要因 -	単	2019年12月14日	2019年度台湾日本語文学会国際学術シンポジウム	疑問文と平叙文で平らなアクセント（低高）の2音節語/mama/を対象に学習者6名の中国語と日本語、日本語話者3名の日本語の音節長の特徴を整理した。学習者の指導前の発話には母語の調音基底との関連が確認された。指導後は適切な音節長に改善され、その要因に日本語の調音基底への移行が挙げられる。
中国人初級学習者の発話の日本語らしさに関する日本人の評価 - CV音節長のコントロールに基づく発話データから -	単	2019年8月7日	CAJLE カナダ日本語教育振興会2019年年次大会 Annual Conference 2019	日本人81名を対象に聴取実験を行い、日本語らしいとする音声を強制選択法により主観的印象により評価させた。その結果、母語の音声的特徴に基づく音節長さの教示により、学習者の発話はCV音節の物理的な長さの改善に加え、聞き手の日本人にも日本語らしいと評価された。
中国語軽声音節の特徴の教示による日本語CV音節長の改善と効果 - 中国人初級日本語学習者の日本語センテンス発話における2音節無意味語を例に -	単	2019年5月11日	The 25 th Princeton Japanese Pedagogy Forum Saturday, May 11, 2019 - Sunday, May 12, 2019 Princeton University	発話実験により日中両語の検査語の音節長には2.28倍の差がみられた。学習者の日本語（指導前）は日本人より47%長く日本語でも中国語でもない近似形の音節長であり、これが母語の発話習慣の反映による不自然さの一因であることを指摘した。
中国語軽声音節の特徴の教示による日本語CV音節の改善と効果 - 中国人初級日本語学習者の疑問文と平叙文の発話データを基に -	単	2018年12月8日	第十二回国際日本語教育・日本研究シンポジウム	学習者6名の中国語と日本語、日本人3名の日本語の文中の検定語/ma/等の平均音節長を測定した。学習者の指導前の日本語は文頭と同様、文中も日本人より100msec.以上長かった。指導後は疑問文で6msec.、平叙文で8msec.日本語話者より長い程度まで改善した。
中国人日本語学習者の中国語と日本語の音節持続時間の特徴 - 母語の特徴を活用した日本語CV音節の長さの改善策とその効果 -	単	2018年8月4日	2018年日本語教育国際研究大会	自然な日本語発話の早期習得をめざす観点から、学習者の母語の音節の長さをもとに日本語の基本単位CV音節の長さの基準を検討した。母語の中国語の音節の長さを基準にした教示で中国人日本語学習者の長すぎる日本語CV音節に改善効果が確認された点を、指導前と指導後の発話データを基に提示した。

中国語話者の発話における中国語音節と日本語モーラの持続時間の特徴 - 学習者の母語の音声的特徴に基づく日本語発話リズム改善に関する一考察 -	単	2017年10月7日	第14回 マレーシア日本語教育国際研究発表会	日本語の/CV構造の短音の長さについて、日本語と中国語の発話実験の結果に基づき、日本語発話のリズム改善の糸口となりうる方向性を提示した。中国語の軽声音節「个」の持続時間に注目し、日本語の/CV構造の短音に中国語の軽声音節の特徴を適応させることにより、学習効果を高める可能性を指摘した。	
多様な日本語レベルのクラスにおけるe-learning システムを活用した長期休暇中の聴解学習 - 全文ディクテーション課題の取り組み結果とその評価 -	単	2016年9月10日	2016年日本語教育国際研究大会	多様な日本語レベルの留学生8名を対象に休暇中のBlackboardによる学習状況と学習効果、取り組みのアンケート結果を報告した。Blackboardは休暇中の学習管理をある程度可能にし、各群の取り組みの特徴が日本語レベルの測定手段になりうることに言及した。	
(その他)					
多様な日本語レベルのクラスにおけるe-learning システムを活用した長期休暇中の聴解学習 - 全文ディクテーション課題の取り組み結果とその評価 -	単	2018年3月	拓殖大学語学研究138号	本稿は日本語教育国際研究大会において、2016年9月10日に行われた研究論文発表に基づく抄録である。	
研究業績 (過去3カ年分)				国際的活動の有無	社会的活動の有無
著作数	論文数	学会等発表数	その他	有	有
0	0	3	0		
学 内 運 営 業 績					
1 役職, 各種委員会等 (主要10件程度)	2004年4月～2006年3月 2007年4月～2008年3月 2005年4月～2007年3月 2017年4月～2019年3月 2006年4月～2016年3月 2010年4月～2016年3月 2016年4月～2017年3月 2019年4月～現在に至る 2016年4月～2021年3月 2021年4月～現在に至る	入試広報委員会・委員 教務委員会・委員 学生委員会・委員 地域国際交流委員会・委員 学生・地域国際交流委員会・委員 自己点検・評価委員会・作業部会・委員 広報委員会・委員			
学 外 活 動 業 績					
1 本学以外の機関(公的機関・民間団体等)を通しての活動 (主要10件程度)	2005年7月 2006年10月 2007年5月, 2011年11月 2008年3月 2009年9月 2010年9月 2011年2月 2011年12月 2014年3月～2014年12月 2015年1月 2015年7月 2020年2月	総合演習特別講義(市立名寄短期大学児童専攻) 総合的な学習時間の指導(市立多度志中学校) 警察通訳(北海道旭川方面深川警察署) 総合的な学習における特別講義(深川東高等学校) 台湾八八水害とその義捐活動に関する報告(深川東高等学校) 広報関係文書翻訳(深川市環境課) 高校生・保護者対象教育講演(公文旭川事務局・深川東教室) 小中高校生対象教育講演(公文旭川事務局・北光教室) 子どもの読書活動推進計画策定委員会・委員長(深川市生涯学習課) 小中高生保護者対象教育講演(公文旭川事務局・サニータウン教室) 台湾華語スピーチコンテスト(台北駐日経済文化代表処札幌分処) 深川市民公開講座「言語について考える」講演			
2 学会・学術団体等の活動 (主要10件程度)	2000年4月～現在に至る 2002年6月～現在に至る 2005年3月～現在に至る 2009年10月～現在に至る 2013年4月～現在に至る 2022年10月～現在に至る 2022年10月～現在に至る 2023年1月～現在に至る	日本音声学会・正会員 中華民国斐陶斐荣誉学会・荣誉会員 日本語教育学会・正会員 中検フォーラム・正会員 旭川日台親善協会・正会員 日語偏誤与日語教学学会・正会員 台湾日語教育学会・正会員 台湾応用日語学会・正会員			